

おれんじニュース

No259

2011年10月号



岷々たる剣岳を背に

★集会・委員会のお知らせ★		★4月から会合の曜日は水曜日です★		
	10月	11月	時間	場所
運営委員会	12日(水)	9日(水)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	7日(金)	4日(金)	13:30~15:30	
全体集会	24日(月)	23日(水)	19:00~22:00	

.....山行の一步は集会参加から.....

.....10月の全体集会は月曜日です!!!.....



檜原湿原
で遊ぶ山
ガール&
ボーイ



亀岳に
も登り
ました



そして
天山に
頂上は
すっか
り秋の
景色



サギソウ



チングルマ 立山にて



カワラナデシコ

田中カメラマン



10月山行計画

↓日にち変更！！

部	技術研修部	山行部	ひまわり山行部	技術研修部
月・日	9日(日)	15日・16日	21日(金)	25日～30日
山名・行事	火の山連山 (303.6m) すえがたけ 陶ヶ岳 (230m)	古祖母山 1633m	九千部 847.5m 石谷山 754.4m	木曾路の旅
地 図	台 道(山口県)	古祖母・見立	中 原	
集合時間	諫早駅裏 6:00 西諫早駅 6:10	諫早駅裏 7:00 西諫早駅 7:10	西諫早駅 7:00	
難 易 度	初心者	やや健脚	初心者	旅行感覚で
帰着時間	20:00	19:00	17:00	
歩行時間	3h	1日目・観光 2日目・5.5h	4h?	それぞれに自由
交通手段	マイクロバス	マイクロバス又 はマイカー	マイカー	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	五カ所公民館等	日帰り	バス&宿
温 泉	無し	無しかも	有り	有りかも
参加費	5500円	12000円	車両使用料規定	70000程度
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集 約	佐原	田中	中村	川原
備 考	低山なれど・・・	紅葉がみごと です。	紅葉狩りと展望	秋の木曾路を 堪能します。
感想文提出	10/15	10/25	10/30	11/10

労山新特別基金の案内(10月で切り替えです。)

「日本勤労者山岳連盟」の「労山新特別基金」は10月が切り替えとなっています。

「労山新特別基金」は労山会員であれば、誰でもいつでも簡単に加入できます。労山の共済制度で、営利を目的にしていません。加入者が増えれば給付額の倍率もあがります。海外登山、急病なども補償します。

個人1口 1000円 (10口まで任意加入できます。)次回の会合で集金予定

技術研修部より

9月23日(金) セルフレスキュー (JR西諫早駅9:30集合)



11月山行計画

部	ひまわり山行部	技術研修部	山行部
月・日	4日(金)	6日(日)	13日(日)
山名(行事)	烏帽子岳(413m) 鳴鼓岳(392m)	鶴見岳・鞍が戸・内山・伽藍岳・塚原温泉・安心院	九重・三俣山 長者原登山口より硫黄道路経由、すがもり越え
地 図	長崎西北部	別府西部	湯坪・大船山
集合時間	諫早駅 8:20 発 JR 西諫早駅 8:24 発 JR	諫早駅前 6:00 西諫早駅 6:10	諫早駅前 6:00 西諫早駅 6:10
難 易 度	初心者	中級健脚・ ゆっくりコース有り	やや健脚
帰着時間	17:00	20:00	20:00
歩行時間	3.5h	5h	5h
交通手段	JR&バス	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	無し	有り	有り
参加費	公共交通費	5000円	5000円
申込期限		定員になり次第	定員になり次第
集 約	中村	佐原満	田中
備 考	ダンギクを愛でながら九州自然歩道をお楽しみください。	すばらしい紅葉を目にすることでしょう。	ドウダンツツジやコミネカエデの紅葉が見頃です。
感想文提出	11/14	11/16	11/23

東日本大震災復興支援カンパ ティーシャツ販売

○価格 2500円 (うち、1000円が復興支援へのカンパになります。)

○色とサイズ オレンジ (SS, S, M, L) 紺 (SS, S, M, L, LL) *サイズは男性サイズ

○デザイン 岩手山 (絵 かけりび山の会、石井さん) 登山時報 9月号に掲載
鳥海山 (絵、熊谷榎さん)

○材質 ダクロン70% 綿30%

*注文は色、サイズ、デザイン、枚数を書いて兵庫さんまで。(今月末まで)

8月/9月の山行報告



8月12日（金）

檜原湿原・亀岳・天山

（参加者）佐原、小山、山下、中村、山口、林田、林、下釜、佐藤、会員外（円能寺）
（行程）西諫早駅前 7:15→佐賀大和 I C 8:30→檜原湿原 9:10→（同所発）10:10→亀岳
11:00（同所発）11:15→天山登山口 12:25（昼食後同所発）13:00→天山 13:25（同所発）14:00
→巖木温泉 15:00（同所発）15:45→多久 I C 16:00→西諫早駅前 17:20
（感想）

参加者 10 名は、小山さんと山下さんの 2 台の車に分乗し、西諫早駅前を目的地に向け出発した。

高速道路を走りだして間もなくしたら、行く手の空に暗雲が立ち込め、やがて小雨がフロントガラスに、その後はワイパーを作動させながら走らねばならないくらいの雨となった。

やがて 2 台の車は、嬉野のトンネルへ、そのトンネルを抜けた途端天気はうって変わって晴天という有様。川端康成の「雪国」の一節が思い出された。

2 台の車は、佐賀大和 I C を下り、古湯温泉街を通り最初の目的地である檜原湿原に到着した。

佐賀県でこんなに高い所に湿原が存在するなんて思ってもいなかったので、驚いた。

同湿原には「サギソウ」、「ユウスゲ」、「オミナエシ」など色んな草花が咲いていて女性の皆さんは、ここにも「サギソウが咲いている。」あそこにも「サギソウが咲いている。」と感嘆の声を発しておられた。

同湿原の見学を終え、2 台の車は亀岳の登山口へ向けて走り出した。登山口近くに車を停め、亀岳めざして登りだした。「亀岳まで 500 メートル」との標示板を過ぎた途端急な坂道となり、おまけに登山道の両側にはササや背丈以上のススキが生い茂り、かき分けかき分けしながら登り亀岳の頂上に着いた。亀岳の頂上は、周囲が樹木や藪に覆われ眺望が全然利かなかったのが残念だった。

亀岳から下山し、次の目的地である天山登山口を目指して 2 台の車はまた走りだした。

しばらくして天山登山口の駐車場に到着した。そこで昼食を終え、天山の頂上を目指して登り出した。

天山は亀岳と違い、登山道の周囲も樹木はほとんど生えておらず、登りながらの眺望は抜群に良かったが道路が石ころばかりで歩くのに一苦労した。幸いなことに天気は曇りで時々日が差すという状態だったので大変助かった。

眺望が抜群に良かった天山の頂上で一時を過ごし、石ころばかりの道を注意しながら下山をはじめた。だれ一人石につまずいてこけた人もおらず、全員登山口の駐車場に無事到着した。それから最後の目的地である巖木温泉へと向けて 2 台の車は走りだし、やがて巖木温泉

に到着した。巖木温泉「作用姫の湯」で汗を流しさっぱりとした気分になり 2 台の車は西諫早駅前を目指して多久 I C から高速道路を走りだした。

今回は、檜原湿原、亀岳及び天山と欲張りのコースであったが、順調にいき、天気もわれわれに味方してくれ、楽しい一日を過ごすことが出来た。

小山さん、山下さんお疲れのところを長時間にわたって運転していただき、有り難うございました。
(佐藤伯隆 記)

8月20日(土)～25日(水)

北アルプス・北部の盟主劔岳
(雄山～大汝山～富士ノ折立～真砂岳～別山～劔岳)

<参加者> (CL)川原慶紀、(SL)岩田光雄、松園朱實、田中静香、鎗水律夫、富澤俊則(非会員)

20/21日(土、日) 諫早～名古屋～富山～室堂平～一ノ越山荘

<行程> 諫早 20日 20:19～名古屋 21日 7:14/8:40～富山 12:23/13:13～立山駅
14:18/14:30～室堂平 15:30～一ノ越山荘 16:30

<感想> 劔岳に最後に行ってから 20 年も経っているだろう。

久々の劔岳山行の日程を山小屋の混雑しないお盆過ぎに設定したが、折も折り日本列島には目的地の在る富山県を中心に、東西に秋雨前線が長々と停滞していた。

北上、南下を繰り返す前線の、つかの間の好天を期待したがそう都合良くは行かなかった。雨になれば唯でも険しい岩の連なり、劔岳は更にグレードを上げてしまう。

堅い岩は滑りやすくなり、3000m近い高度は気温を下げ体温を奪う。国内の山岳でも有数の絶景が観られないのも口惜しい。

8月20日夜8時過ぎ夜行バスで諫早 IC を、田村さんとお孫さんのはるかさんに見送られて四名は出発、他二名は大村で合流した。

初めての夜行バス利用である。佐賀の基山を過ぎると車内は両側の窓も、前後も客室は閉め切られてうとうとしい時間である。夜でも時には窓の外を見たいものである。

21日朝、名古屋の名鉄バスセンターに着き近くで朝食を済ますと、再び高速バスで富山に向かう。

高速道路を1時間走った所で、右手に郡上八幡が見えてきた。日本中から観光客が集まると云うこの盆踊りを、いつの日か旅行者として見たいものだと思いながら、何年も通り過ぎていく。

『～郡上のな～八幡出て行くときは雨も降らぬに～袖しぼる～』と歌い哀調を帯びている。幕末、圧政に抗して農民達が決死の覚悟で、八幡宮に集まって袖を濡らすほどの涙を流しながら、妻子、故郷へ別れを告げ一揆へ出かけて行った悲しみを伝えているのである。この村里を見ながら通り過ぎるとき、往時の農民達の苦しみが想われる。バスの



窓から見る今日、村の中央を流れる大きな川の中州には、甚八笠を被った鮎釣師達が長い竿を振る平和な姿がある。

そこから1時間、神通川を渡る富山市の中心部である。

今でこそ釣り人の姿が見られるこの川も、所和の初期、一企業の垂れ流しが原因で流域の周辺の人々にカドミュウム汚染によるイタイタイ病をもたらした。

昼過ぎ、富山電鉄で立山へ向かう。昭和の初め頃を想わせる電車で、駅舎も車窓の風景も昔のままである。立山駅に14:18着、次はケーブルカーに乗る。

20年以上も前のこと、最終便でこの駅に着いた宮島さんと私が明日ケーブルカーに乗ることにして、ホームのベンチに寝る支度をしていると、駅員に「あなた方は親子ですか」と聞かれ、返事する暇もなく駅員当直室が空いているからそこに泊まりなさいと、案内されて世話になった思い出深い駅である。

ケーブルカーも窓から見る景色も変わりがなく、途中の柱状節理の岩肌もそのままであった。7分で終点美女平へ。ここからは高原バスである。低く垂れ込めた雲の中を一時間、右へ左へと次第に高度を上げていく。



立山ケーブルカー

立山信仰の霊地であるこの山域は地名もそれに因んでいる。弥陀が原、称名滝、浄土山へと続く。室堂平も昔のままである。

周囲には雲が立ち込め、時折雨がぱらつく中を、良く管理された雄山へと続く信仰の路を、時には雪渓を踏んで午後五時前に一ノ越山荘に着いた。明日登る雄山も大汝山も見えないままであった。

(川原 記)



一ノ越山荘

22日(月) 一ノ越山荘～雄山～大汝山～富士ノ折立～真砂岳～別山～剣山荘

<行程> 一ノ越山荘 7:05～雄山(3003m) 7:57/8:25～大汝山(3015m) 8:45/8:49～富士ノ折立(2999m) 9:07/9:10～真砂岳(2861m) 10:08/10:13～別山(2880m) 10:55/11:05～剣山荘 12:50

<感想> 昨夜降り続いていた雨も上がり、くもり空であるが景色も少し見渡せる。

一ノ越山荘前で記念写真を撮り立山(雄山・大汝山・富士ノ折立)を目指して出発。

最初からかなりの急登である。傾斜30度(?)、皆の息がはずむ。

今から長丁場であるため、無理をせず、休みを取りながらゆっくり進む。

頂上近くになってから止んでいた雨が再び小雨に切り替わる。7:57 雄山へ登頂。

立山は古くから修験者の山として開かれていたため、頂上に神社があった。

神主も滞在していたため、全員で安全登山の祈願をし、他の参拝者とともにお祓いを受けた。一息つくとも大汝山へ向けて出発。このコースは標高差が12mしかないため楽であり、約20分で頂上に着いた。頂上はゴツゴツした大きな岩場であった。天候が良ければ眼下に室堂が箱庭のように見ることができるであろうが残念。

早々に富士ノ折立に向けて出発。ここも標高差が少ない稜線を歩き20分足らずで頂上に着いた。頂上は大汝山と同様に大きな岩をいくつも並べたようなところであった。

記念写真を撮ると早々に真砂岳へ向けて出発。

富士ノ折立と標高差138m、稜線を下るような形であまりアップダウンはない。途中雷鳥と遭遇、身を守るためか岩場の色に溶け込んでいる。危険を感じて直ぐに逃げようとはせず、しばらく見とれて一時の疲れを癒してくれた。約1時間で頂上に着くと、頂上は大汝山、富士ノ折立みたいな大きな岩はないが、広い岩場であった。ここも、5分程の休憩で剣山荘へ向けて出発。

計画では真砂岳から別山乗越を通して剣山荘へ下る予定であったが、途中三差路でコースを間違えたらしく別山へ登頂してしまった。真砂岳から約40分の道のりであったが、少し疲れたものの、立山三山(雄山・別山・浄土山)の二つ目に登れた事で、一つ得したような気分でもある。頂上は祠があり、その周囲は風除けのためか石が積まれていた。さっそく川原・松園・田中さんが地図の確認を。・・・

間違えたところでの再確認と、下りは剣御前小屋を通して剣山荘へ。・・・



雪渓を渡る

約15分程で剣御前小屋へ着くと数組のパーティが休憩を取っていた。我々もここで行動食(昼食)とお手洗いタイムとした。少し疲れを癒したところで11:45同小屋を出発。剣山荘へはほとんど下りである。途中の草花が疲れを更に癒してくれる。花好きな富澤さんがしきりにカメラのシャッターを押している。また、所どころには大きな雪渓があり、立山・剣岳の雪の深さを感じるとともに、二ヶ所の雪渓をトラバースし、ゴロゴロした岩場を下りる。

先に剣山荘が見えて一安心するも、なかなか辿り着かない。まわり道が長い?・・・

12:50 やっと剣山荘へ着いた、剣御前小屋から約1時間の道のりであった。

剣山荘は新築して間もないのか、とても気持ちが良い、受付で貫録のある女将さんが迎えてくれた。女将さんの話では、天候が悪い(雨)ため、泊り客のキャンセルがあるとのこと。そのお陰で我々は一部屋を貸し切ることができた。

今日の日行程は修了。雨が気になるがゆっくり休養して、明日本番の剣岳へ。・・・

・・・

・・・

・・・

(岩田 記)



雄山神社

23日(火) 剣山荘～劔岳～剣山荘～劔沢小屋～劔御前小舎～雷鳥沢～みくりが池温泉

<前半行程> 剣山荘(2470m)5:00～一服劔(2618m)5:30～前劔(2813m)6:30～カニのタテバイ7:30～劔岳(2999m)8:10/8:30～カニのヨコバイ8:40～剣山荘10:50

<感想> ガスの切れ間に見え隠れする劔岳山系は急峻な岩峰の重なりであり、遠くからでは登山道は確認できない。多分岩の割れ目を下りたり、よじ登ったりして頂点に達するのであろう。

昨夜から強くなった雨は明け方になっても降りやまず、風も少し強い。剣山荘の女将の「危険を感じたら引き返すように」との言葉を後に5:00に出発。

リーダーを先頭に一服する間もなく一服劔を通過。

そのころには雨も小やみになり、そのまま天気が回復しそうであったが、空しき期待であった。

ここから先は私が先頭に立つが、眼前には急峻な岩峰の前劔が立ちはだかり、圧倒される。岩肌を上にも下に横にと移動しながら、ようやく前劔に立つ。

これより先、高度感と岩場のスリルを楽しむことになる？ まず「前劔の門」と言われる岩場を鎖を頼りに横切るが、これは結構注意を要する。次に「平蔵の頭」と言う岩峰を巻いて超え、スラブ状の一枚岩の鎖場を下りて少し進むと平蔵谷の淵に出る。この少し上からが名にしおう「カニのタテバイ」、9番目の鎖場である。

リーダーと先頭を交代する。足の運びが問題であり、リーダーが第一歩はどちらの足を出すか注意して見守る。四番目に登る。途中眼下を眺めても特に恐怖感はない、これも日頃のセルフレスキューのおかげかな？

リーダーのご配慮により、この先また私が先頭に立ち2011年8月23日8時10分「劔岳頂上」に立った。ガスで周囲は相変わらず見えず、記念撮影をすまして行動食を摂る。

8:30下山開始。8:40最も恐怖を感じる「カニのヨコバイ」にかかる、10番目の鎖場である。これまでいくつものミニタテバイ/ヨコバイを通過してきたせい、全員難なく通過。

すぐに長い鉄梯子を下りると避難小屋を通過し、後は元来た道に戻るだけ。とは言うものの右に左にちょこちょこ間違いながら一服劔にたどり着き、下の方に剣山荘が見えた時は本当にほっとした。剣山荘着は10:50、予定通りの時間であった。

生憎の天気であったが、私にとって今までで最もハードでスリルのある山であり、深い達成感に浸っている。リーダー、サブリーダー始め皆さんに感謝いたします。

(鎗水 記)

23日(火) 剣山荘～劔沢小屋～劔御前小舎～雷鳥沢～地獄谷～みくりが池温泉

<後半行程> 剣山荘発11:25→12:00劔沢小屋着→13:00劔御前小舎着→14:10雷鳥平着→14:45みくりが池温泉着

<感想> 一見、無愛想な強面であったが「劔に登るなら滑るから注意して!」と、心配し



てくれた剣山荘の女主人に見送られ、室堂の「みくりが池温泉」へ向け出発。

今日が一番の長丁場である。午前中の劔岳往復でエネルギーはかなり消耗している。

時間に余裕があるのでゆっくり行こうと声を掛け合う。川原 CL から先頭を言い渡された。昨日の立山縦走に続いて2回目の先頭である。

昨日下ってきたコースとは異なるが、遠目にルートが見通せる。ペース配分に留意すればどうにか行けそうである。



剣山荘から目と鼻の先に見える劔沢小屋経由で、まず劔御前小屋を目指す。すぐ近くに思えたが、劔沢小屋までは雪渓を2つ渡り、沢のごろ石を越えていくので35分かかった。劔沢のテント場の一角に、「富山県警山岳警備隊」の建物が見える。立山、劔岳山城の遭難救助の第一線機関である。登山者が少ないからか、建物に人影はなかった。

テント場から小さな尾根に取り付く、右手に劔沢を見ながら沢の斜面を登っていく。

最初は緩やかな登りであったが、劔御前小屋の手前で急登が待っていた。この辺りから急に雨脚が強くなる。顔に当たる雨粒が大きくパチパチ音がする。痛い。

剣山荘を出てから1時間30分で劔御前小屋に着いた。休む間もなくここから川原 PL 先頭に立つ。

降り続く雨で、小川のようにになっている雷鳥沢の急坂をザクザクと一気に下った。

下る途中、小太りの若い女性が座り込んでいた。「劔御前小屋までどのくらいかかるか」川原 PL に聞いている。雨に濡れながら「眠くて眠くて」と言っている。夕方までには着けるだろうが、一人で大丈夫か心配になった。他人に本気で心配されるような登山は考え物である。

雷鳥平に着いた頃やっと雨が小降りになった。一服してから、いかにも滑りそうな沢の一本橋を渡る。「落ちちゃったら助けるけん、心配せんでよかよ」と言われたが、下は大雨で急流の川になっている。慎重に渡った。雷鳥平のキャンプ場からは室堂一帯の周遊路が整備されている。地獄谷を経て、みくりが池温泉への300m程の石段を登る時、川原 PL 以外はもうへろへろ状態であった。石段の途中で2回ほど休んで、ようやく宿に着いた。靴も雨具もずぶ濡れ状態のままロビーの丸太イスに座り込んでチェックインの手続きを待つ。疲れているはずの岩田 SL が全員の手配を済ませている。本当に感謝である。

指示された部屋は女性8人部屋で、2段式ベッドは上しか空いていなかった。今はベッドに上がる余力はない。廊下で荷物を片付け、ようやく温泉に入った時の心地よさ、久々に疲れが湯に溶け出す感覚を味わった。

同室になった女性達との情報交換で、私達が雨の劔岳に登って来た事が分かれると驚嘆された。一人では登れない山も、優れたリダーの元、パーティで登れば登れる。有り難かった。後で川原 CL に「最後の石段は強かったですねえ」と感心すると、「目の前に酒がちらついたとさ」と言って、いつもの顔で「ハッハッハッ」と笑った。（松園 記）

24/25 日(水、木) 室堂～諫早

<行 程> みくりが池温泉発 9:00～室堂バスターミナル発 10:00～美女平発 11:00～立山駅発 11:34～富山駅発 13:40～名鉄バスセンター発 19:40～諫早 IC6:34

<感 想> 5時起床。昨夜は疲れていたはずなのに登頂出来た喜びに興奮していたのか、なかなか寝付けませんでした。みくりが池温泉は日本一高所にある温泉で24時間入れるということでしたので、夜中に入ったら少し眠れました。

6時朝食。8:30 ストレッチ後みくりが池温泉を後に室堂を散策。日本三霊山の一つ立山の「三山めぐり」と呼ばれる雄山 浄土山 別山の人気コースとあって、グループや家族連れで賑わっていました。日本百水の「王殿湧水」で喉を潤しましたが、立山トンネルの大工事で噴出した地下水は冷たく美味しかったです。

室堂からの高原バス、行きは雨とガスで視界は全くききませんでした。帰りは晴れ、車窓からの景観を楽しめました。雄山、大汝山、あれが前剣、剣岳と話しながらクネクネとバスは下り、途中日本の「称名滝」で一時停車して鑑賞。美女平からはケーブルカーで立山駅へ。富山電鉄に乗り換え、次は富山で高速バスに乗り継ぎ名鉄バスセンター着。名古屋では藤井さんにお会いして一緒に食事をしましたが、皆さんの話を聞きながら、スケールが違くと只々感心するばかりでした。

お腹が満ちたところで諫早までの最後の行程、夜行バスに乗り翌朝諫早着。長崎からアルプスは遠いです。

CL川原さん、SL 岩田さん本当にお世話になりました。計画から実行まで大変な労力をされたことに感謝しております。鎗水さん、富沢さん、松園さんありがとうございました。

深田久弥が「北アルプスの北の俊英」と言った岩山「カニのタテバイ」「カニのヨコバイ」は有名な難所。

鎖場、岩場が随所にありました。そんな剣岳に登れたのも日頃のロープワークの指導があったからだと思います。お疲れさまでした。



カニのヨコバイ

(田中 記)

9月3日(土)

大黒山(324m)・大梅山(277m) in 山口県

<参加者> 中須賀、川原、山下、林田、下釜、中村、林、佐原、松尾(敏)、山口 計10名

<行 程> 6:30 西諫早駅発～9:00 玉司 IC(休憩)～10:50 大黒山登山口着～11:00 登山開始～11:45 大黒山頂上(昼食)～12:30 出発～大梅山～13:20「林道分かれ」を下る～13:45 初心者コース組 駐車場着(14:00 上級コース組 着)～14:10 発 三丘温泉入浴～7:30 下関 巖流島 IC～20:00 西諫早着

<感想> 本日は、山口方面にも台風の影響があるかな、と懸念しつつ出発する。

幸運にも中型バスが来ており、座席もゆっくりと余裕があった。

霧雨に遭うも車中のこと、皆それぞれに話が弾む。現地は晴れており、またまたラッキー。今朝突然にお誘いした、Mさんの機敏の敏に晴のご利益か？

大黒山の山頂は大崩山ならぬ小崩山の様相をしており、眼下に見渡す町並みや田園の風景は絵葉書のように、すばらしい眺めであった。

帰りのバスの中でも、長時間の旅がアツと言う間に過ぎる程、芸達者のオンパレード。低山ではあったが、遠く遙々来た甲斐があったと、実感した。

私は久しぶりの遠出であったので、スロー歩きで休みながら登った。二つの山は隣どうしなのに、土質が違って面白かった。近くの山の頂きには樹木の焼けた跡があり、その原因が火事だったのか、手入れした跡だったのか分からない。

唯、温泉が靴入れに 100 円、半時間の入浴に 1,050 円とは、隠居の身には痛かった。しかし、お蔭様で何はともあれ幸運な一日でした。 (中村 記)

10日(土)～11日(日)

第12回「元気の出る集会」in 熊本

(参加者) 川原、福岡、山下 (長崎から 26 名 全体で 140 名)

(感想) 個人的な感想を聞かれば台風が近づいてたにもかかわらず良い天気で気持ちの良い草原の山 (烏帽子岳) に登れてそれだけでラッキーという感じ。ただ、往年の労山会員はこれで満足できるのだろうか？・・・

まず、熊本県連の方々の手際の悪さが目立った。受付その他待たされる事たびたび。



講演1の「九プロ黎明期を振り返って」は大半の人が居眠りタイムであった。しかし、会員の携帯の音で目を覚ます始末。講演2「阿蘇の自然について」は大変面白く興味深かった。むしろ、もっと聞きたかった。阿蘇のカルデラの規模、阿蘇の古墳について面白く映像を使って講演された。その後の分科会は前もって聞いてた説明とは違って③安全登山と④セルフレスキューがいっしょになっていた。座学が主で持っていったロープもカラビナも使う事はなかった。そしてあまり得ることもなかった気がした。「詳しくは明日の搬出訓練で」と言われても、明日は烏帽子岳に行くようにしてるし・・・。

翌日は秋晴れのいい天気。出発はもたついたけど、烏帽子岳はほんとに気持ちの良い山だった。毎日の訓練にも足りない位の時間で登ってしまい、ものたりなかったが、景色は素晴らしかった。今年の夏は雨の山行きが多かったせいか爽やかな風を受けて気持ち良く下山した。九州各県から集まった労山会員はどこで元気をだせたんだろう？交流会かな・・・それとも帰りのバスの中での宴会かな？ (山下 記)



大黒山にて

オレンジ
HC 山口県
の山を制
す。晴男
の M 氏を
真ん中に



やっとたどり
ついた大梅山。
ハッハッ！！



綱引き？
いえいえ
山登りです。



御館山に
毎日登っ
てるから
楽勝楽勝



↑花と同じ色のブラウスの
中村さん。ポーズがいいね

☛ すっかり秋めいてきた
天山と天山ダム 8/12



9月11日 阿蘇 烏帽子岳から眺める杵島岳、往生岳

おれんじニュースNo259	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2011.9.21
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/



まるでゴルフボールのようなきのこを御館山で発見。翌日は花のように開いてました